

# 真備 200戸の建設仮設の募集はじまる

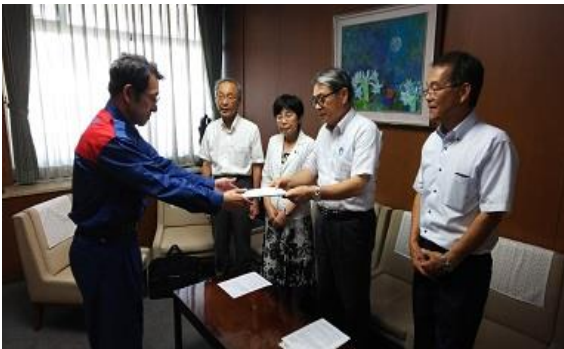
## 木造仮設45戸 1DK・2DK・3K お隣入居も

岡山県と倉敷市が30日、1000戸の建設仮設計画の内、200戸の計画を発表し、さっそく受付を始めました。200戸のうち45戸が木造仮設です。200戸のタイプは1DK、2DK、3Kの三種類あり、さらに近所の二世帯がペアで住めるような「お隣入居」の制度も設けられており、被災者に喜ばれています。

共産党は、引き続き必要な仮設の建設を求めています。

## 広島県委員会 県に緊急の申し入れ

### 避難の長期化に備えた対策を求める



日本共産党広島県委員会は7月27日、広島県当局に対して「豪雨災害にかかわる緊急の要望」を申し入れました。(写真)

申し入れではまず最初に、「避難が長期化することが考えられる。避難所をはじめ、あらゆる避難先の生活環境改善の要望に応えること」として、「避難所の改善」とともに、「避難所に避難できない被災者に避難所と同等の支援をすること」を求めています。

## 倉敷地区 毎日・朝と夕方の結集で知恵と力を集めて 被災者のいのちと暮らしを守る活動に全力

甚大な被害を出した倉敷市真備町を抱える倉敷地区では、機関役員と市議が毎日・朝と夕方結集し被災者支援活動に取り組んできました。(写真)

夕方の結集では、寄せられた様々な要望が出され、それを一つ一つ解決する手立てを相談し、実際に解決していきました。

「木造仮設」など倉敷で前進している課題も、この集約の中で知恵と力を集めて取り組んだものです。

